国際ロータリー第 2550 地区

黒 磯 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 会 報

国際ロータリー会長：バリー・ラシン
第 2550 地区ガバナー：　伊東 永峯
事務所：〒325-0826 宇都宮市西原町 142
宇都宮グランドホテル内
TEL：028-651-2550
FAX：028-651-2551
E-mail: m2550@agate.plala.or.jp

インスピレーションになろう

会　長：村山　茂　　幹　事：植竹　一裕
事務局：(株)植竹虎太商店内 植竹　一裕
〒325-0056　那須塩原市本町 6-5
TEL:0287-62-1123・FAX:0287-63-9228
E-mail: k.uetake@coral.plala.or.jp
例　会：国民の祝日を含まない週の水曜日
12:30 - 13:30
割烹石山　那須塩原市本町 5-5

第2821回　村山年度　第4回　　会報　2018 8-1　　司会　秋葉秀樹君

お客様

- **国際ロータリー第2550地区ガバナー**
  伊東永峯様(宇都宮西ロータリークラブ)

- **国際ロータリー第2550地区**
  第1グループガバナー補佐
  橋本憲一様(大田原ロータリークラブ)

- **国際ロータリー第2550地区**
  宇都宮西ロータリークラブ
  鈴木徳郎様

- **国際ロータリー第2550地区**
  宇都宮西ロータリークラブ
  木幡英俊様

- **米山記念奨学生**
  権鎬珍様

バナーの交換

会長挨拶　村山茂会長

皆様、こんにちは。本日は、国際ロータリー第2550地区伊東永峯ガバナーをお迎えしての例会でございます。改めまして、黒磯クラブ一同心から

出席報告　出席委員会 泉 道夫君 （出席規定の免除会員数7名）

例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	MU 数	修正出席率
本日　8月 1日	37 (7)	31 (6)	6 (1)	86.1%		
前回　8月25日	37 (7)	31 (6)	6(1)	86.1%	0人	86.1%

欠席の場合は当日 9 時 30 分までに次のいずれかにご連絡を。電話 62-0128、FAX62-1076 （以上石山桂子）
メール　qqvn2bz9k@sound.ocn.ne.jp

歓迎申し上げます。
　また、新年度1カ月という中で、現況報告書作成等本日に向けての準備につきましては、皆様の迅速かつ積極的な対応に対しまして厚くお礼申し上げる次第です。
　さて、先週は、当地域4市町にわたる「日本遺産」指定についてご紹介いたしましたが、本日は8月のロータリー特別月間のテーマ、会員増強・新クラブ結成推進についてお話しいたします。
　黒磯クラブの本年度の会員増強目標は、純増2名でございます。一般的にクラブあるいは組織等に加入するのは、そのことによって何がしかの目的を達成するためだと思います。自分の趣味や体力増進・健康維持のためとか、災害支援のためのボランティア活動とか、高齢者支援とか、色々ございます。それでは、ロータリークラブに加入して何をするのか。勧誘された方々にすれば、多分そういう問いがあると思います。
○世界平和と紛争予防・解決
○ポリオ撲滅に代表される伝染病予防と治療
○水と衛生
○母子の健康
○基本的教育と識字率向上
○経済と地域社会の発展
　これらは、グローバル補助金を活用する際に認定条件となる項目です。これに職業奉仕とクラブ奉仕そして青少年奉仕を加えれば、ロータリー活動の骨子の説明にはなると思いますが、勧誘された方にすれば少し幅がありすぎ、戸惑いを覚える方もいらっしゃるかもしれません。従いまして、様々な会員増強に関する手引書やらパンフレット等が作成され、ご案内をいただく訳ですが、なかなか成果に結びつかないのが現状だと思います。
　このような中、今年度会員増強目標達成のためのインスピレーションになればとの思いから、ポール・ハリス語録の中からひとつ紹介いたします。
「隣人愛と友情をはぐくむ機会を無駄にすることは、海にダイヤモンドを捨てるより愚かなことです。日々の苦労が重くのしかかっていませんか？夕べに友が訪れれば、憂鬱は消え、気分新たになるでしょう。・・一部割愛・・隣人が訪れる道は、正門ではなく裏木戸ということもありましょう。私たちの父親の世代では、人々は単に「立ち寄った」ものです。「訪問する」より「立ち寄る」ことのほうがはるかに愉快です。私たちは、「余分の料理」を決して忘れることはできません。これが、善意を示すものなのです。隣人の訪問は、この世の最高の強壮剤です。牛肉、鉄剤、ワインにまさります。是非お試しください。」
　会員増強は、簡単ではありません。しかし、必須のものでございます。そして、誰でもいいという訳にもまいりません。「政治や宗教に関係なく、お互いの意見を広く許し合えるような人を選び出して、親睦をはぐくめるような人」をお迎えしたいと考えております。秋間　忍会員増強委員長を中心に、目標達成のため一丸となって推進してまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。

こっこ食堂支援金贈呈
（地区補助金活用）

● **ロータリー財団委員長　荒牧明二君**

こっこ食堂紹介
　こっこ食堂は平成29年9月15日のオープン以来、子ども食堂として毎週金曜日の夜に開催しています。
　また、一般社団法人日本伝統医療協会の日本人の身体に合った食事として、日本の伝統食に近づける調理法を取り入れ、栄養の吸収が良く、腸の中で腐らないような食事を提供しています。
　このように、ただ食事を提供するだけでなく未来を担う子ども達に健康的な食事を提供し、孤食を無くして楽しい食事の場にしたいと努力しています。
　今までも、那須塩原市子育て支援課や社会福祉協議会等のご協力のもと、チラシ等の配布をしてもらい、困っている子どもには無料のお食事券を配布してきましたが、今回のロータリー財団と黒磯ロータリークラブからの支援により、9月より1年間の予定で、中学生以下の子ども達は全て無料にして行く予定です。

米山記念奨学金贈呈

宇都宮大学農林共生社会科学博士課程2年　権 鎬珍君

幹事報告　植竹一裕幹事

村山年度第4回幹事報告

- ガバナー事務所より8月度のロータリーレートは＄1=¥112との連絡が入りました。
- 国際交流協会より、協会便りが届きました。回覧しておりますのでご覧ください。
- 次回例会は8月22日となりますのでご注意下さい。また例会終了後、村山年度第6回理事・役員会を開催致します。理事・役員の皆様はお残り下さい。

委員会報告　大島三千三副会長

皆様こんにちは、委員会報告を受け付けますので、報告のある委員会は報告願います。

ニコニコボックス　薄 孝明君

2550地区ｶﾞﾊﾞﾅｰ 伊東永峯様	御志を頂いております。有難うございます。
第1グループｶﾞﾊﾞﾅｰ 補佐 橋本憲一様	お世話になります。
宇都宮西RC 鈴木徳郎様	宇都宮西RCです。本日は有難うございます。
宇都宮西RC 木幡英俊様	本日は勉強させて頂きました。有難うございます。
時庭 稔君	誕生祝い有難うございます。
村山 茂君	伊東永峯ｶﾞﾊﾞﾅｰようこそ黒磯クラブへ。
藤﨑善隆君	ｶﾞﾊﾞﾅｰ、ｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐ようこそ黒磯クラブへ。
佐藤 博君	台風も逆走する時代になりました。
大島三千三君	伊東ｶﾞﾊﾞﾅｰようこそ黒磯へ。
平山 博君	誕生祝い有難うございます。

卓話

- **国際ロータリー第2550地区ガバナー**
  伊東永峯様（宇都宮西ロータリークラブ）

皆様こんにちは、只今紹介頂きました宇都宮西ロータリークラブ所属、今年からガバナーとなりました伊東永峯です。宜しくお願い申し上げます。本日はまず、ガバナーとしての仕事の二つをお話しさせて頂きます。一つはRIバリー・ラシン会長の方針というものを各クラブの会員の皆様にお伝えするということが、まず第1でございます。二つ目は2550地区で今年は、こういう形で地区の事業をやります。この二つの件をお話しさせて頂きます。

只今、会長様よりの挨拶のなかにもポールハリス語録の中からお話し頂きまして、今年は、ロータリ

ーを作ったポールハリスが生まれて150年という年に当たります。1868年4月19日に生まれまして、今年は150年になりました。一昨年、地区のガバナー選考委員長であった鈴木宏さんが当クラブに参りまして、宇都宮西からガバナーを出してもらいたいということで来られました。もちろん私に直接ではなく、クラブのその時の会長・幹事にお話があり、引き受けまして理事会に諮り私が選ばれたわけです。私もいろいろ悩みました。ガバナーはいろいろと大変だなと、その時から感じておりました。

去年1月ガバナーとして自分の年度の地区の方針、考え方を表に出さなくてはいけない時期が来まして、何をやろうかということでいろいろ考えました。そのころ規定審議会において規定の変更があり、ロータリーの行き先に不安を感じました。皆様も感じてらっしゃると思います。昔からロータリーは一業種一人これが原則です。それが一業種5名までよい。奥様でも良い。職業が無くても良い。そういうことでロータリーは誰でもよいから会員にしてしまえというような方向が違ってきたような気がした訳でございます。そういう中でどうしたらよいか、要するにロータリーを作ったポールハリス、私達はもう一度ポールのことを考えてみようではないか。ポールハリスを語ろうという題目を自分自身で思った訳でございます。

ガバナーになるために3回のガバナーエレクト研修セミナー、去年の9月11月行いまして、今年の1月にはアメリカのサンディエゴで世界各国からエレクトの皆さんが集まって研修会が開かれました。1週間ホテルの中で朝から晩まで缶詰で研修しました。研修のプログラムの中に、すべては一人のインスピレーションから始まったという文章が載っていました。私は嬉しかったですね。すべてが一人のインスピレーションから始まったということ、この一人というのは勿論ポールハリスです。ポールハリスのインスピレーションから、ロータリーというのは始まったことをバリー・ラシン会長は表しました。バリー・ラシン会長はポールハリスを忘れてはいなかった。バリー・ラシン会長のお話の中から、今もそしてこれからも、ずっとポールハリスの思い描いた団体であり続ける、ポールハリスの思い描いた団体を目指している、ポールハリスを慕っているなと感じたわけでございます。

今年カナダトロントで開かれたロータリー大会、この時の表紙のところのプログラムに、インスピレーションがいたるところに載っております。インスピレーションは、それぞれの人で受け止め方が違うと思います。皆さんだったらインスピレーションは、どういう受け止め方をしますか。インスピレーションというのは心の中に思い描いたこと感じたこと、そういうものがインスピレーション。ポールハリスは心の中にインスピレーションを感じてロータリーというものを作られたわけでございます。こちらにあるのが今年のRIのバリー・ラシン会長のテーマのバッジでございます。よく見てみるとバリー・ラシン会長はバハマ国の出身でございます。バハマというのはアメリカのフロリダ半島の東の方の大西洋の中にある約700の小さな島が集まった国です。バリー・ラシン会長は、私の国はあと2年もすると無くなってしまうかもしれない。それはなぜか、標高は高いところで1メートルぐらい、海面上昇で全部海に沈んでしまう。はっきりとは言いませんでしたがバリー・ラシン会長は自然破壊、自然環境の保全、そういうものを私達に伝えたかったのではないかと思います。

プログラムに描かれている波、これはバハマに打ち寄せる大西洋の波でございます。波というのは絶えることはない、常に打ち寄せてきている、その打ち寄せて来ている波、それがインスピレーションです。私たちの思いというのはいつまでも尽きることなく湧きいずる波のごとく、自分の心の中に感じたインスピレーションを人のため、ロータリーの奉仕は人々の人生、そして地域社会を変えるものです。誠に真に変化を生み出す奉仕をもっと実現するために、私達はロータリーでの自分の役割そして世界におけるロータリーの役割を、これまでとは違う角度でとらえる必要があります。人のため地域社会のために良いことをやって前向きな考えで前に進んでほしいと、バリー・ラシン会長は、この波のごとくインスピレーションをうまく使って活発に活動してほしいと、私達に訴えている訳です。これは勿論、クラブにおいても、そして各委員会においても、このインスピレーションというものをもってクラブ活動、そして委員会活動に前向きな姿勢で人のためにいいことをやろうよと言っているのではなかろうかと思いますので、宜しくご理解いただければと思うわけでございます。

ポールハリスが生まれて、今年は150年になるのでRIの委員に国際ロータリーではポールハリス150年に何か行事を考えているんですかと聞きましたら、RIは一切そういうことは考えていませんでした。それだったら私たちは創立何周年という周年事業をほとんどのクラブが行っております。個人的にも誕生日というのは、みんな大切にしている。150年前であってもロータリーを作ったポールハリスが生まれた年であれば、ロータリーというものをもう一度考えるという上で、ポールハリスを、お祝いしようではないかと私の胸の中にあったわけでございます。

それで地区の行事として、一つにはポールハリス生誕150年を記念しまして月桂樹を記念植樹を計画しました。なぜ月桂樹かというとポールハリスが日本にきた昭和10年2月9日、東京の帝国ホテルに宿泊しまして来日記念として帝国ホテルの中庭に月桂樹を植樹いたしました。帝国ホテルが改修することになって、植えた月桂樹を移転しました。ところがです月桂樹というのは大変気難しい樹木だということで4月5月6月この辺しか根付かないそうです。皇居に隣接する北の丸公園の中に第2世が植えてある。月桂樹を切ってくるわけにかないものですから、色々調べまして横浜の方にもっていった月桂樹が枯れそうになったので、東京ロータリークラブの方が挿し木をし、その第2世が育ちまして、育ったものをやはり挿し木をして桐生ロータリークラブ例会場の庭の入り口のそばに植えてありました。桐生ロータリークラブにお願いして約250の挿し木を頂いてきました。それをロータリアンの田村さんが養生しまして20本ぐらい根が付いたと聞きました。その木をもって今年10月27日、宇都宮グランドホテルで地区大会の折に記念植樹を行います。宇都宮グランドホテルの南側に教会があります。その教会の正面のところに、ポールハリスが生まれた150年を記念して第4世の木の植樹を行います。

その月桂樹が栃木県にも植樹されたことを、会長幹事にご案内いたしますので宜しくご参列頂ければと思います。また地区大会の折に皆さんが是非この地を訪れ、この地に植えたことを確認頂ければ有難いと思います。ポールハリス生誕150年を記念して月桂樹の植樹をするという私の年度の大きな行事の一つでございます。

次に、ロータリー財団への寄付のお願いです。ロータリー財団といのはRIで行っている事業でございます。皆様方から財団に寄付を頂くと全部アメリカに行きます。一般財源、恒久資金というかたちで財団にプールされます。その寄付頂いた資金を3年間運用しまして、3年後に各地区に活動資金として戻ってくる訳でございます。ですから今年戻ってくる財団の活動資金というのは3年前にロータリアンが寄付したものが、今年戻ってくるわけです。その資金でグローバル補助金とか各クラブで行う奉仕活動に使うことが出来るわけでございまして、ですから今年皆様方からご寄付頂いた財団のお金を3年後に、また地区に戻ってくるということでございましてご理解頂きたいと思います。

それから、もう一つはポリオプラスでございます。RIではポリオをゼロ宣言したいということですが、現在パキスタンに5例、アフガニスタンで15の症例があり、これが無くなるというのは、それが切れて3年たって初めて発症が無かったらポリオゼロ宣言されます。

それから米山奨学金これは大変に栃木県と関係があります。米山奨学金というのは米山梅吉が日本が東南アジアに対して大変迷惑をかけたとの思いから、その国際親善と世界平和を目指して、東南アジアから日本に来ている学生を支援しようじゃないかと言って始めたのが米山奨学会でございました。米山さんの亡きあと、その遺志を継いだのが古澤丈作です。古澤丈作は栃木県と関係がございまして、栃木の西方村に現在生家がございまして、お二人の姪御さんが家を守っているということでございます。もし機会がありましたら桜の名所、西方村に訪れてください。現在日本で約750名の米山奨学会の皆さんに支援をさせて頂いております。

それから4番目にRLI、これはロータリーリーダーシップ研究会、去年から始まりました。アメリカで始まった研修の方法でございます。年3回作新大学において朝の9時から17時まで研修を続けてロータリーの基礎を学んでいただく。出来れば各クラブから3名から5名ぐらいの方のご参加頂いて研修を受けて頂けたらと思います。1度では、なかなか理解できない所がございますので2回3回と受けて、クラブの中で指導者としての養成して頂ければ有難いと思います。

それから一クラブ2名の純増でございます。お願い致します。純増ですので地区内で100名の新しい会員が増えることでございまして、会員増強、今まで公式訪問をしてきまして、どこのクラブでも会員増強ということに悩んでいる、色々考えて行っております。そういう意味では皆様方、会員増強委員会とか出席委員会とか協力して増強にお願いします。私は去年、自分の親友を誘って、例会に参加して見て頂いて、これならいいだろうということで入会して頂きました。

それから6番目に出席向上とメークアップの奨励です。昔は宇都宮西RCに毎回4、5名のメークアップがおりましたが、最近は本当にいなくなってしまいました。ロータリーの良さはメークアップに行くことによって分かります。一人では勇気がいりますが、仲間と、また紹介者と一緒に、宇都宮は月曜から金曜までどこかで例会が開かれております。私ども宇都宮西ロータリークラブは宇都宮東武ホテルグランデにて、木曜日12時半から1時半の例会です。宇都宮を訪れたときはどこかで開かれておりますから1時間だけ是非、例会に参加頂き、他のクラブの様子を見て頂ければと思います。

ロータリー良さというのは、このバッジですね。このバッジ、これは世界共通でございます。世界に120万の同胞、仲間がおります。どこかの国に旅行に行って、その街でロータリーの開かれている情報を得て世界に友達をつくることは、ロータリーの良さではないかと私は思っております。他のクラブに参加すれば、自分たちのクラブの良いところ悪いところが見えてきますので、是非メークアップを利用ください。

そして最後にロータリー会長賞、会長特別賞を目指しまして、月信を参考にマイロータリーから登録して、こういう事業や活動をしていることをRIに報告

して頂いて、RIが認めた場合にはメールが戻ってきますので。是非利用してください。　以上、バリー・ラシン会長そして2550地区の今年の方針を申し上げました。

あと10分あるので私のお話をします。私は宇都宮の中心から北西に大谷観音の近くで寺の住職をせがれに譲って長老という職をしております。会社で言えば会長職です。平成13年に妻が先に逝ってしまいまして、今思えばこうしておけば良かった、ああしていれば良かったと思うことが2、3あります。男というのは意気地ない弱いものだということを感じました。

60を過ぎたら少し準備をしましょうよと話をさせて頂きます。どういう準備か、生きていた証、証拠ですね、まず写真を撮りましょう。誕生日でもいい、正月でもいい、写真をきちんと残しておきましょう。最近、葬儀のやり方も変わってきていますが遺影は飾りますよね。遺影の写真が結構ぼやけているのが多いものです。その時になって慌てて写真がないので、小さい写真を大きく引き伸ばすから歪んでしまう。誕生日にきちんと写真を撮ってファイルしておく、その時になったらこれ使ってくれと家族の人に言っておけばよい。これ大切だと思いますね。

もう一つは生きた証として遺言を書きましょう。公証人役場とか正式なものでなくてよいから、こんな私に50年もの間、そばにいてくれて本当に有難う、また今度会うときも一緒になってくれますか、有難う御座いました。書いた年月日と名前を書いて三文判を押しておく、これ立派な遺言書だと思います。

夫婦であればお互いが今、自分に何が大切か分かりますね、それをファイルして写真と一緒にとって置く、これ生きてきた自分を残すことでございます。ただ箪笥の奥ではだめです。しまっておくのは誰でもわかるような場所に置くことが自分の意志を残すことではないかと思っております。

この前、私のクラブのチャーターメンバーが亡くなりまして91才でございました。その時奥様が言った言葉が「また次の時も、この人と一緒になりたいな」と言いました、凄いと思いませんか、今は夫婦であっても一緒にお墓に入らないという人が結構おりますが、これが本当の夫婦だなと思いました。

最後に、やはり目も足も耳もしっかりしている時に、いい思い出をいっぱい、いっぱい残してもらいたい。目や足が悪くなれば、どこにも出られなくなってしまいます。ご夫婦で旅行に行ったり食事に行ったり楽しんで頂ければ悔いのない人生だと言えるんではなかろうかと思います。

そんなことで今年のRI会長のテーマ、地区の方針、最後に蛇足を喋らせて頂きました。ご清聴頂きまして厚く御礼申し上げます。宜しくお願い致します。

RI第2550地区　ガバナー伊東永峯様を迎えての炉辺会合
司会 村山会長

それでは引き続き国際ロータリー地区ガバナー伊東永峯様をお迎えしての炉辺会合を只今より開会させて頂きます。これからの進行につきましては伊東ガバナーにお願いしたいと思っております。宜しくお願いします。

● 国際ロータリー第2550地区ガバナー伊東永峯様（宇都宮西ロータリークラブ）

炉辺会合と申しまして、あまり固くならないで、今回私が考えたことはポールハリスを語ろうということでございます。ちょうどポールハリスが生まれて150年、ポールハリスがロータリーの祖であることはみんな知っていることですが、あまりよく存じ上げていない方も多いのではと思い、ポールの最初の頃は、どうだったかなと調べました。それをお話しさせて頂きます。

ポールハリスは今から150年前アメリカの5大湖ミシガン湖畔のシカゴから北に約40キロの町ラシーンで生まれました。ポールを語る上において大切なことはポールハリスが3才の時に祖父母に預けられたことです。お父さんが事業に失敗して家にいることが出来なくなってしまい、祖父母と幼少期を過ごしたわけでございます。

そこでポールハリスはニューイングランドの家庭の躾、お互い助け合う犠牲的精神、献身誠実という精神的な面を養った訳でございます。ポールハリスはロータリーの祖といいますが、ロータリーの基礎を築いたのはポールハリスでなく、祖父のハワード・ハリス、祖母のパネラ・ハリスという、このお二人がしっかりとポールハリスの幼少期に精神的面をしっかりと植え付けたからでございます。

ポールハリスがアイオワ州立大学を卒業した時に弁護士資格取りましたが、弁護士の事務所を開設することなく、ポールハリスは先生に、世の中を見てきなさいよという勧めを頂き5年間の俯仰をしまし

た。果樹園での労働、山を300マイル徒歩、また大学の教授をしたり、大理石を積んでイギリスに渡ったり、本当に苦労して毎日を過ごした訳でございます。5年たってシカゴで弁護士の事務所を開設しました。私が思うのに、この5年間がロータリーの基礎、もちろん祖父母の精神的な教えもありましたけれど、いわいる寛容という大きな広い気持ちを、この5年間に学んだではなかろうかと思います。

ある時、弁護士仲間の友達の家に遊びに行った時に街を歩いていたら、その弁護士は、町の人達に名前ではなくニックネームで呼ばれていた。ポールハリスは、あーなんとすごいことだと感じ、同業は仲が悪いけれども、業種が違えば案外うまくやっていけると思いつき、1905年2月23日に石炭商のシルベスター・シール、鉱山師のガスターバス・ローア 洋服商のハイラム・ショーレーの3人に自分の基本構想を話した訳でございます。それはいいだろうということでシカゴの町に仲良しクラブを作ったわけでございます。最初にできたクラブは会員の相互扶助、それから会員の親睦、この2か条だけの定款を作って人々を集めた訳でございます。ちょうどそのころアメリカで南北戦争がありまして終わってからの3年は、もう世の中は荒廃して大変でした。人を信用できない、人をだますのが普通でした。そういう中において仲間と親睦の輪を作ってシカゴの町の中に仲良しクラブを作ったわけでございます。ところが弁理士のドナルド・カーターという人が入ってきまして、自分たちのことだけしか考えないクラブは長続きしない、人のため相手のことをしっかりと考えなくてはいけないという直言によって、シカゴクラブの中に社会奉仕という理念を植えつけた訳でございます。

シカゴの中でロータリーが最初に行ったことが公衆トイレの設置です。シカゴの町に公衆便所を作ったわけでございます。それがロータリーとしての最初の社会奉仕事業です。

ドナルド・カーターの尽力よって今のロータリーの基本がほとんど作られたと言われております。一つには一業種一会員制、職業分類の原則、2番目に例会出席の義務、3番目に政治および宗教上の論争及び団体行動の禁止。4番目に例会場固定と食事、5番目に卓話の習慣、6番目にロータリーソングの斉唱、7番目に理事会宣言、ドナルド・カーターによって決められて続いている訳です。

ポールハリスは1907年シカゴクラブの第3代の会長になり、3つの目標を掲げました。一つはシカゴクラブをもっと大きくしよう。二つ目は全米の町にロータリークラブを作ろう。三番目に社会奉仕を強化していくという目標を立てた訳です。もともと一番目のシカゴクラブをもっと大きくする。二つ目は全米の町にロータリークラブをつくるは、なんとかできるだろうが。三番目の社会奉仕に力を入れるが、大きな論争を生んだ訳でございます。もともと組織が出来る前は仲良しクラブで親睦を中心とした集まりでしたから、そこに社会奉仕という理念を取り入れることは、大変論議を呼んだわけでございます。そこでポールハリスはロータリーには雑草も繁茂しているが美しい花も咲いている。見苦しいことを探す人は見苦しいものを見つけるし、美しいものを探す人は、また同じくその望みを達する、どちらを選ぶかは各自の自由である。友情を求めるならロータリーより有望なところはないと発表しました。1910年全米ロータリークラブ連合会が出来ました。いまのRIですね。その中でアーサー・フレデリック・シェルドンが大会の中で、最もよく奉仕する者、最も多く報いられると発表しまして、超我の奉仕を発表しました。シカゴロータリークラブはお互いのために、また親睦のために集まった仲良しクラブから、さらに国際的なビジョンへと拡大する組織へと発展していったわけでございます。ポールハリスは、こう言っております「私たちはいつまでも成長してやむことはないでしょう、心底からロータリーに関心を抱く人々はこのように信じているのです。世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き替えられなければならないでしょう。」ロータリーというのは同じではない、常に変化をして動いているということをポールハリスは言っている訳です。

今までロータリーに二つの大きな変化がございました。一つは仲良しクラブから超我の奉仕を規範とした奉仕と倫理を重んじるクラブへと変化したことです。二つ目は決議23の34号の採択、セントルイス大会で、クラブとしての金銭的奉仕や身体的奉仕の実践をも積極的にするべきであるという動きが顕著になってきました。実践派の先頭に立ったのは身体障害児の保護、教育に貢献してきたエドガー・アレンでした。彼は、1918年、オハイオ州エリリアロータリークラブに入会し、ロータリーは一丸となってこの事業にあたるべきであると主張して、1922年のロサンゼルス大会に身体障害児救済事業に関する決議案をトレード、クリーブランド各クラブとの共同提案として提出しました。理事会はこれを受けて、この事業を奨励する決議22-17を採択したのです。これに力を得た実践派の動きはますます活発になり、「ロータリー創立の理念を守るべき」というシェルドンを中心とする理念派との対立が深まり、ロータリーは分裂の危機に瀕します。議論の中心は多額の金銭的支出を伴うクラブによる団体奉仕を、ロータリーの奉仕として認めるか否かでしたが、個人奉仕と団体奉仕、さらには金銭的奉仕の是非にまで話が広がったということです。国際ロータリー理事会は、収拾がつかない状態になることを回避するために、両派の考え方を調和させるとともに、従来からあるいろいろな奉仕の考え方や行動を整理・調和させるための努力を繰り返します。最終的には、テネシー州ナッシュビルロータリークラブのウイルR. メニアJr. を中心とする委員会によって起草・提案された決議23-34の採択によって、論争の終止符が打たれ、両派の対立は解消した。

ロータリーは113年という長い間続いているということは、ドナルド・カーターやアーサー・フレデリック・シェルドン、多くのポールハリスを支える人々によって倫理性を大事にする団体となり、一人のロータリアンが一つの業種を代表するという職業分類に重きを置き、寛容の精神を大切にしてきたことではないかと思います。ロータリーが他の団体と異なるのは、職業奉仕に重きを置いていることでございます。職業奉仕とはどういうことか、簡単に言うとバケーショナルサービスいわゆる天職です。天から与えられた職業、ただ職業を営むだけでなく、授けられた職業を人に恥じないように、人のためになるように、一生懸命、力を尽くしているかということです。

ポールハリスは職業奉仕を、社会に役立つ人間になる方法はいろいろありますが、最も身近で、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります。事業を見ればその人が分かります。社会的に大成功していても事業では平気で不正をする人もいるかもしれません。しかし良き職業人はどのような時でも社会で不正なことはしないと思います。自分に関する人たちに最善のサービスを提供していけば、感謝と信頼と信用を得て必ず自分の利益につながる、これはお互いが利益を得るということです。顧客の満足を意識した職業サービスに心掛けることでございます。

各クラブでも掲げております4つのテスト、職業奉仕の理念としていますが、ハーバード・テイラーにより4つのテストが創案されて職業奉仕の理念として採用されました。もともと4つのテストは調理器具メーカーが倒産の危機になり、それを再建するためにハーバード・テイラーが考えた理念でございます。4つのテストは商取引をするのに当事者同士が納得できる取引の基準を示したものでございます。1の真実かどうかは、この商品に対して品質、納期契約条件などに嘘偽りはないか。2のみんなに公平かは、すべての取引先に対して公正か、3の行為と友情を深めるかは、信用を高め取引先を増やすことができるか、4のみんなのためになるかどうかは、すべての取引先に利益をもたらすか、自分も育つが相手にも利益をもたらすことが出来るかということを、4つのテストは言っている訳でございまして、これは真剣に会社を復興させるための4つの思案であったわけでございまして、この調理器具メーカーは倒産を避け4年後には立派に再建することが出来たということでございます。

懇談会の席で会長へポールハリス語録を進呈しました。会長挨拶の中で参考にして頂ければと思います。もう一つは、ロータリーへの私の道、これもポールハリスが書いたものでございます。今年は是非ポールハリスを皆さんで思い語って頂ければ有難いと思っております。

● **国際ロータリー第2550地区**
第1グループガバナー補佐
橋本憲一様（大田原ロータリークラブ）

第2550地区第1グループガバナー補佐の橋本です。宜しくお願いします。

先日、黒磯ロータリークラブに初めて訪問させて頂きました。過去に色々お世話になったガバナー補佐の方また会長様がおられました。

どのクラブでも会員減少のなか、37名の会員を維持していることは素晴らしいことです。また、よく活動もされてガバナー補佐として訪問しましたが、前回も今回も非常に勉強になりました。大田原ロータリークラブにおきましても黒磯ロータリークラブを参考に活動してきたいと思います。本日は有難うございました。

8月 1日欠席（敬称略）
荒井昌一・井出　法・小野安正・豊田哲司

前回 7月25日分メークアップ（敬称略）
該当者なし

次回例会　平成30年8月22日　担当　クラブ奉仕委員会　新年度方針・計画

近隣クラブ例会日
○ 火曜日　西那須野/いとう屋　0287-36-0028
○ 水曜日　塩原/塩原カントリークラブ　0287-35-2211
○ 木曜日　大田原中央/勝田屋記念会館　0287-23-4165

近隣クラブ例会日
○ 木曜日　大田原/ホテル龍城苑　0287-24-2525
○ 木曜日　那須/ホテルエピナール那須　0287-78-6000
○ 金曜日　黒羽/ホテル花月　0287-54-1105

会報委員会：稲垣政一・和気勝利・秋間 忍・藤崎善隆